

【個人研究実践例】

興味を持って意欲的に取り組む子をめざして

倉 真理子

ダウン症児の1年生であるT児は、明るくひょうきんで誰にでも好かれている。しかしその反面「～しなさい。」という指示にはほとんど従えなかったり、初めてのことに對してはすぐ取りかかれずじっとしていたりということが多。そこでT児が意欲的に生活し学習していくためにどのような手立てをとってきたか述べてみたい。

T児は、以下に述べるように発達の段階が低く集団生活にも慣れていない1年生であるので、個別学習あるいはクラス学習・合同学習の中でも個別の配慮を十分にしたり教師が1対1で対応していったりするという指導を主としてきた。

1. T児の実態

○昭和55年5月22日生。ダウン症。

○遠城寺式発達検査では下の表のようになり、全体では2才2カ月となる。

移動運動	手の運動	基本的習慣	対人関係	発語	言語理解
2才9カ月	2才	3才	1才9カ月	1才9カ月	1才9カ月

・掌を擦っても反応はなく、腹筋はほとんど発達していない等身体面でも未発達である。

○T児の様子を本校の段階別教育内容表の項目に関連して調べてみると次の表のようになる。

	項目	実態 (5月の段階で)
自立化	着脱	○その時の状態にもよるがしようという意志はある。援助されることを嫌がる。ボタンはめやスナップはめはそれらしい手つきはするが①スナップの凹凸を合わせることができない。②指先に力が入らないのではまらない。 ○上着は頭を先に入れて着る。頭を入れるとあとはスムーズだが自分ではなかなかしようと思わず、ちょっとしたきっかけが必要である。 ○帰りの着替えや他児が不機嫌な声を出した後の着替えは疲れと恐れのためはかどらない。
	食事	○まねをして「いただきます」「ごちそうさま」がいえる。 ○箸でほとんどこぼさないで食べることができる。○茶碗を持つことができない。
	排泄	○おしっこの合図をすることはほとんどない。長い間我慢しているので促して連れていくことが多い。タイミングが合わないとしたくても嫌がる。
社会化	ひとり遊び	○玩具や掲示用のカード等を使って自分で遊びを見つけ一人で遊ぶ。
	対人関係	○他児の大きな声に萎縮してしまい泣いたり、先生に抱きついたり教室の外に飛び出したりすることがある。 ○気分によっては友達を意識してほっぺをつつくことなどして遊び相手を望むことがある。
	集団行動	○移動の時などおもしろがって外や二階へと飛び出すことがあり手をつないでの移動が多い。
表現化	音声	○絵を見て命名する(動物の名前、身近な物の名前)ことはできるがほとんど言葉はでない。
	文字	○興味がある。文字を押えながらゆっくり読むとじっとカードや口を見ている。

3. 指導の重点と方法

好きなことなら長時間取り組めるT児に対して、T児の興味や関心を大切にしながら時間や実情が許すかぎり自由に遊ばせ、一緒に仲間として遊んでも指示はできるだけ避けたいということから、

自由な時間を与え、じっくり取り組める場を作っていく。(遊び・学習)

音楽が流れていたり教師の語りかけがあったりという楽しい雰囲気の中では意欲的に取り組めるということから、

本児の嫌がること(特に大きな音や声)はできるだけ避け、楽しい雰囲気の中で生活させる。

ほんの少し待っていると自分から徐々にやり始めるということが期待されるので、

あまり強制しないで本人が始めるまで待つ。

という三点を常に念頭に置きながら指導していった。

指導として急激には効果は表われてこない方法であるが、小学部の1年でまだ発達の段階の低い児童であり、持っている能力を出しきればどんどん伸びていくことが予想される子なので、現段階では意欲的に取り組む姿勢を育てていきたいと考えた。また、合同学習や大勢の人の前で思わぬ力を発揮することがある。指導の方法として1対1で対応するが、意欲づけやクラス学習・個別学習の評価の場として、合同学習は本児にとって大きな意義がある。

以下、本児が意欲的に取り組めるようになった事例について述べていきたい。

4. 実践から

(1) 教師の待ちを手段とした実践

① 朝の会の音楽指導を中心として

本来、大変な音楽好きでお母さんをして「ジャズから民謡まで何でも来い」と言わせるほどである。しかし朝の会で4月8日の入学式の日から行っていた「指遊び」(作詞・作曲たまみゆき)全然しようとしなかった。以下家庭への連絡に使う生活ノートの学校の生活欄の記録である。

9日…指遊びの時は先生の顔が穴があくぐらいじっと見ていた。
10日…少し手を持って一緒にしました。
11日…お母さんの音を追って泣く。先生から離れられずずっとだっこで参加する。
15日…先生がだっこしてたが大分手や足を動かしたり、挨拶したりした。
17日…合同朝の会。ちゃんと歌に合わせて挨拶をする。マイクを持って一人でチューリップを歌う。
24日…張り切って指遊びをしました。約2週間かかればやりだすことが分かりました。

このようにして朝の会に意欲的に参加するようになってきたが、ゆっくりと待ちながら上腕や肘の部分に刺激したり、少し持って動かすことによって音楽によって体や手が動いていくようになった。

② 合体における「ぞうさんのあくび」の体操と「ラジオ体操」の指導

小学部では合同体育で毎回「ぞうさんのあくび」を体操として取り入れている。4月から週2回ずつしたが音楽をじっと聞いていて部分的に動くことはあったがほとんど自分からは体操をしなかった。6月中旬の合体で初めてする。ほぼ完成された形であった。その間約2か月かかった。ラジオ体操も5月の運動会では立っているだけだった。夏休み前に休み中のくらしの学習の中で、ラジオ体操をしてラジオ体操カードにシールを貼る学習をしたが、ほとんど手足を動かさなかった。夏休み兄弟と一緒に子ども会の体操に参加したり、家庭学習のために作った学習

のしおりと共に持ち帰らせた体操が入ったカセットテープで練習したりしたことによって9月の運動会では意欲的な取り組みが見られた。

③ タイル絵の製作を通して

2 cm×3 cmの大きさのダンボールの廃材を台紙に貼りつけ色をぬり、貼りつけるタイルを作る。一方貼りつける台紙には縦横の罫線を引き、タイルを貼る場所にタイルと同じ色を着けておくというような教材を用意した。その教材に取り組んだ様子である。

10月29日…初めて取り組む。

30日…タイルを貼った台紙からタイルをはがしてしまう。少しの時間で4枚はぐり取り置いている。先生の指示や援助を嫌がり、それがなければ喜んで作業をする。

31日…台紙からはぐり、並べて楽しんでいる。約5個。並べたものをまた取って並べる。縦になったり横になったりしてはいるが、一列に並べている。(このままでは作品が出来ないのでT児ははぐって並べた数だけ子どもが帰った後で貼っておく)



11月4日…まだ縦横はばらばらだが、7つ並べる。友達のは完成に近づき、それを見ていたT児も見通しが持て始めたように思う。

11日…貼ることができた。

13日…縦横を正確に並べることができた。約40個の紙片を貼った。

14日…本児担当の「たぬきが乗った汽車」が完成する。

15日…3人で「ぶたが乗った汽車」を共同制作する。(写真)

(2) T児向けの課題作りや配慮を重視したクラス学習の実践

① こいのぼり・山の草づくり・粘土遊び等の製作活動を通して

こいのぼり 入学して間もない日紙に少しだけ罫を入れ後はちぎっていく遊びを集中してしていた。そこで5月のこいのぼり作りでは罫の細かい作業ができるH児には三角形のうろこを、まだ十分ではないが罫が使えるK児には直線ばかり切ればいい四角を、このT児には少しだけ罫を入れて後はちぎって作るうろこを課題として与えた。のつや紙を全部ちぎり、教師がのりづけして与えると重ねないで約20分集中して貼れた。

くきつくり こいのぼり同様ちぎるという作業が中心となった。作業を進めるにあたって指示はできるだけ避け「とんとん」というような動作を表しさらには楽しくなるような声かけを行った結果意欲的に作業を進め約15分取り組んだ。

粘土をひねる会での取り組み 9月10日に焼き物にするための粘土をひねる会が行われた。夏休み中にした紙粘土では感触を嫌い逃げ出してしまったということがあって不安があったがしばらくは人がするのをじっと見ているその後小さくちぎって粘土台の上に幾つもの形を始めた。ほとんど口出しせずにいると30分間満足そうにその作業を続けた。そこでT児がちぎってできたものをたくさん集めて組み合わせ写真3や汽車の窓を作っていた。



② 意欲的に取り組むための手だて

1学期に4月5月はM児が意志を通じないときに苛立って発する「キッキッ」という声や要求の為に出す大きな声に萎縮してしまい耳を手で被り何もできなくなってしまうことが多かった。こんなとき無理をせずT児を教室から連れ出して様子を見たり、T児の机から離して教師机に座らせて作業を続行させるなどの配慮をしてきた。運動会の応援練習で上級生の太鼓の音におびえたT児を教室外に連れ出し、教室の外で教師と一対一で拍子打ちの練習をした。その結果徐々に慣れ、運動会当日には上級生に混じって応援合戦に参加した。また、10月に入って朝や帰

りの会でなかなか動作をしないT児を先生の代わりに座らせ先生役を頼んだ、人前では張り切って手遊びや挨拶をすることができた。

(3) 衣服の着脱の指導

4月から、1校時がT児の個別指導の時間になっているときはゆっくりとしたペースで着替えさせることにした。T児は遅いながらも自分でしようという意志が見られた。

4月の下旬家庭の協力を得てカッターシャツのボタンを全部スナップに取り替えてもらう。5月からの個別指導ではフェルト製の汽車を作りスナップで連結させていくという方法を工夫して指導していった。これには興味をもって取り組んだ。その結果①片面を机にあてて上から押すと言う形ではめることが出来だし、はめるという感覚が分かってきた。②しかし、凹凸を合わせる時視線が合わず自分でとめることは出来なかった。力の入れ方が分かってくるとカッターシャツでも教師が合わせると自分ではめることができるようになってきた。12月現在、合わせることを指導している。



5. 考 察

- 発達の年齢が2才半に満たない段階でしかも「～したい」と本来意欲的なT児に指示し教え込むことを避け、T児が取り組めるタイミングを待ちながらほんの少しずつ刺激をしていくやり方は、効果的であったと考える。その結果としてパズルやままごと・ブロック重ね等の遊びや文字カードを並べたり読んだりする学習に意欲的に取り組めるようになった。M児との人間関係も育ってきていて、はじめ怖がってばかりいるという関係から、大きな声に対しては無視し、M児の機嫌のいいときにはちょっかいを出したり、プロレスをしかけていったりという場面も見られるようになった。
- 周りの子どもや教師がしていることを興味深そうにみつめ、そのうちやってみたくなくなったときにし始める。時間はかかるが本児にとってこういう模倣は有効な手段である。
- くり返しの大切さを思う。各単元毎の学習のしおりとしおりに合わせた自作のカセットテープを家庭で繰り返し聞くことによって学習の内容がより定着していった。家庭の協力を得る取り組みも大切であった。
- 本児にとって合同の時間は意欲を盛り上げる上で大切な時間であったが、単に合同の中に入れるだけでなく、1対1で配慮した上での合同学習の場であればならなかった。

6. 今後の課題

クラス学習に於いても合同学習においても、T児の興味や関心に視点をあて教師と1対1で対応していく場面が多かった。来年は、集団での生活の2年目として友だちの中で友達といっしょにということを考えていかなければならない。また、指示や援助を受け入れられる人間関係の成立につとめていきたい。